

特集 地域文化新時代 文化のまちづくり

巻頭言 ● 8 地域からの文化発信 無名塾の活動について ◇ 仲代達夫

座談会 ● 10 地域文化新時代
◇(出席者) 松浦幸雄/平田オリザ/中村信夫/永井多恵子/◇(司会) 竹本廣文

論文 ● 20 文化のまちづくりのマネージメントとは
◇衛 紀生

随想 ● 24 地域文化新時代 ◇ 草刈津三
エッセイ ● 28 変化の予感 ◇ 松本 修

● 30 地域文化と共鳴するバレエ ◇ 牧 阿佐美
事例紹介① ● 32 演劇は人と人を結ぶアート ◇ DSP実行委員会

事例紹介② ● 34 伝統芸術と現代芸術が融合した文化のまちづくり
◇山形県庄内地方拠点都市地域
事例紹介③ ● 36 挑戦する勇氣あげます!! ◇新潟県小出郷文化会館
事例紹介④ ● 38 スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド ◇富山県福野町
事例紹介⑤ ● 40 二一世紀への新価値づくり
山里の美学を世界へー臥龍桜日本画大賞展 ◇岐阜県宮村

解説① ● 42 「芸術情報フラザ」の活動内容 ◇ 芸術情報フラザ
解説② ● 44 地域文化の振興について ◇ 文化庁文化地域文化振興課

特別記事 二一世紀に向けた介護関係人材育成の在り方

- 48 これからの高齢社会を支える介護関係人材の育成
C・A・R・Eプラン'97の持つ意義について ◇ 鈴木喜夫
- 50 二一世紀に向けた介護関係人材育成の在り方について ◇ 高等教育局医学教育課
- 52 育成段階における医療と福祉の連携の推進 ◇ 川崎医療福祉大学
- 53 福祉社会システム専攻という夜間大学院
◇ 東洋大学大学院社会学研究科
- 54 高齢社会における介護関係施策の課題
◇ 厚生省社会・援護局施設人材課
- 55 福祉サービス現場からの期待する医療系人材
二一世紀医学・医療懇談会第二次報告を読んで ◇ 橋本正明

1 ある日の学校訪問記
◇ 神奈川県立平塚三ツツ学校
(神奈川県)

カラ 4 天然記念物歳時記
◇ トラフダケ自生地 (岡山県)
本谷のトラフダケ自生地 (岡山県)

表2 名作シリーズ ◇ 打薬扁壺
表3 文化財紹介 ◇ 郡上踊

6 であいふれあい ◇ 平尾誠二
57 鑑賞席 ◇ ものがたりの森
子どもたちの美術展
◇ 開館10周年記念展
国立国際美術館の二〇〇年

58 焦点1 文教施策
63 中教審ユース
70 家庭教育のための取組
◇ 家庭教育への理解を深めるために

72 都道府県発 教育・学術文化・スポーツユース
◇ 北海道 東川町 ◇ 千葉県 ◇ 滋賀県
◇ 鳥取県
74 どんな講座 どんな講座 大学の公開講座から
◇ 東京農工大学 ◇ 沖縄大学

76 現代スポーツあれこれ
◇ 競技力向上を支える強化スタッフについて
78 行ってみよう やってみよう
◇ 国立オリンピック記念青少年総合センター

80 海外教育ユース
82 文学のふるさと ◇ 田舎教師

84 編集後記

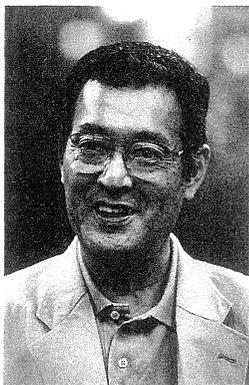
巻頭言

地域からの文化発信
無名塾の活動について

俳優

仲代達矢

撮影・小林 洋



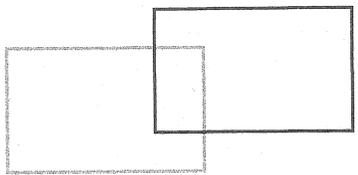
なかだち・たつや 東京都出身。俳優。「無名塾」主宰。舞台「リチャード三世」、「令嬢ジュリー」、「どん底」、映画「人間の条件」、「切腹」、「影武者」等大作に多数出演。日本を代表する俳優の一人である。文化庁芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章、フランス文化省シュバリエ芸術文化勲章、芸術祭優秀賞、日本放送協会放送文化賞。

役者をやって四五年、無名塾をやって二三年になります。この間、非常に順調で、やりたい芝居もやり、すばらしい映画にも巡り合え、周りの人材にも恵まれ、創造的な仕事をしてきました。ただ悲しいことに昨年、芝居の良い相棒であった妻の隆巴、仲代恭子があの世へ旅立ってしまいました。私ばかりでなく無名塾の若者たちにとっても悲しい出来事でした。

さて、無名塾の活動ですが、毎年全国から一〇〇〇名前後の入塾の応募があります。大学の受験などと違い点数で決めるわけではないので、この中からだいたい一〇日間かけて、将来の演劇界を背負って立つ俳優になるだろうと思われる五、六名を選びます。そして三年間は手取り、足取りのマンツーマンで本当の基礎をたたきこみます。一年のうち半年は東京の稽古場

若い子相手に、その子の個性にあった教え方をするわけですから。それにもかかわらず二七年間続いてきた最大の理由は、この子は役者には向かないのだと絶望的になっていた時、ある日突如として、才能の花が芽生えるときがある。それが快感なんです。教育っていいなあと思うのです。

石川県鹿島郡中島町における無名塾の活動ですが、昭和六〇年に無名塾がこの町で、ある演出家の友人の紹介で合宿稽古をしたのが始まりです。能登半島というところは、文化的遺産みたいなものが非常に多い土地で、そういう意味では文化が根付くというのか、一種の美感覚みたいなものが非常にあって、芝居のやりやすい土地でもあります。町の人たちが非常に協力的で、民宿や稽古場の提供など積極的に応援してくれました。我々も盆踊りやカラオケ大会などの町のイベントに参加して、積極的に交流を深めていきました。やがて、劇場建設の話が持ち上がって、演劇専用のホールが建設されることになったわけです。そして音響・照明等について我々の要望を十分に取り入れた、我々作り手にとっても見る側のお客さんにとっても全く理想的なホールである、「能登演劇堂」が造られたのです。まさしく、地域文化の容れ物ができただけです。ただ、容れ物ほできただけでも、どううまく中島町が活用していくのか。私たちがこの世にいないなくなっても、とにかく劇場は残ります。これをどうやって将来につなげていけるのか、非常に真剣に考えるのです。何しろこの劇場は私が言い出したという責任もあります。中島町は、町全体が町長をはじめ、カッカッと燃えてがんばっ



で訓練し、もう半年は、年一〇〇回くらいの無名塾の公演で実践として舞台に立たせたり、スタッフの仕事もやらせます。またこちらから、つらいことですが、あなたは俳優に向いていないと宣告することもあります。

無名塾を開設した理由ですが、演技を指導してほしいと頼んでくる若者が何人かいましたね。家内が稽古をやり始め、ちょっとのぞくと、まあ、下手なんです。つい口が出て、手が出て……。だんだんこちらも熱心になっていって、マンツーマンでやっているということに非常にみんな興味を持って、そのうち私も入りたい、私も、と若い人が全国から集まってきて……。こうして自然発生的にできてきました。そして今日に至っています。途中いろいろな苦勞もありました。なにしろ世代の違っ

ています。この劇場が内容のソフトと共に継続することが、真の意味で地域における文化の振興につながると思うのです。

無名塾の公演は、イブセン作「ソルネス」以来、全部能登演劇堂を出発点にしています。そして今年は一〇月九日から一月一〇日まで一か月にわたって、「いのちぼうにふろう物語」のロングラン公演を行う予定です。人口八〇〇〇人の町に二万人のお客を集めなければなりません。並たいていのことではないのです。

地域の人たちは、非常にレベルの高い目で芝居を観ます。そういう意味では、私にとっては地方も中央もないので。本来の地域文化とは、中島町を中心に能登半島に演劇集団が生まれ、その地方色を活かす個性をもったスタッフ・キャストが、この能登演劇堂を活用することだと思えます。そうすることによって真の意味での地方からの文化の発信が成立するのでしょうか。これが理想的な形だと思えます。しかし、現実的にはかなり難しい面も確かにあります。例えば俳優の育成一つをとっても、その難しきは並たいていではありません。無名塾でも二三年間懸命にがんばってもなかなか成果が上がらないのが現実です。真の地域文化を発信する組織ができるまで、無名塾は一生懸命にお手伝いしたいと思います。なんといつても能登演劇堂は、我々無名塾にとっても、理想的な演劇ホールです。精神的にも演劇の原点に立ち戻れる劇場です。中島町は無名塾のふるさとです。そういう思いで、今後もこうした活動をやっていこうと思っています。

(談)

特集 ● 青少年の 野外教育の推進

●巻頭言
野外教育のすすめ——三浦雄一郎

●座談会

生きる力を
はぐくむ野外教育

(田席者)五十川隆夫/杉原正
高梨房子/高野孝子/司き尾山眞之助

●提言

後藤康男/阿部 祐
佐藤初雄/土井浩信

●事例紹介——山口県教育委員会ほか

●文部時報7月臨時増刊号

「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」

中央教育審議会第二次答申

7月下旬刊行予定

▽人々が心の豊かさを求める時代となり、文化に対する関心も極めて高くなっています。各地域においても、美術館や文化会館などの建設が進み、地方においても優れた芸術文化に巡り逢える機会が多くなっていることは大変有り難いことだと思います。反面、運営などソフト面ではまだまだ課題も多いようです。このような中で今月号の特集は「地域文化新時代―文化のまちづくり」を取り上げました。

ています。今後、より一層地域において個性豊かな文化の振興が図られよう、読者の皆様方とともに期待したいと思います。

(T・K)

●訂正 平成九年五月号二四頁・事例紹介欄点大学方式等によるアジア諸国との学術国際交流についての記載中、上段五行目「九か国一五機関」は「二〇か国一六機関」に訂正し、中段五行目「フイリピン科学技術省(昭和五四年)」の後に「韓国科学財団(昭和五四年)」を追加します。

投稿歓迎

「読者からのたより」欄への投稿、「文部時報読者アンケート」を歓迎します。本誌を読んだ感想、御意見等をお寄せください。

●「読者からのたより」投稿規定

①1件につき400字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈

※文章を一部手直しさせていただくことがあります。

送り先 〒100 東京都千代田区豊が岡3-2-2

文部省大臣官房政策課「文部時報」編集部

※電子メールでも受け付けております。

宛先名「jiho@monbu.go.jp」

●「文部時報読者アンケート」

文部時報読者アンケートは添付のはがきのほかに

電子メールでも受け付けております。

宛先名「jiho@monbu.go.jp」

コンピュータネットワークを 利用した文教行政の広報

文部省では、我が国の文教施策等を広く皆様に紹介するため、インターネット等を利用して情報を提供しています。

インターネットアドレス:

http://www.monbu.go.jp/(半角入力)

パソコン通信:

GO コマンド(Nifty-Serve) } MONBUSHO
Jコマンド(PC-VAN)

なお、パソコン通信による情報提供は、国立教育会館の協力を得て実施しています。

●著作権所有——文部省©

●発行所——株式会社 きようせい

本社 〒104 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-88 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 03-5349-6666(営業部) 振替口座 00190-0-161

●印刷所——株式会社行政学会印刷所

平成9年6月10日印刷

平成9年6月10日発行

定価610円(本体581円)(〒84円)

年間購読料7,320円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いいたします。

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。